

授業科目等の概要

医療専門課程 柔道整復学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			栄養学	食物、人体、環境要因という栄養学の基本を総合的に学び、健康の保持・増進、そしてスポーツ選手の競技力向上に果たす栄養学の役割を十分に理解することを目的とする。	1前	30	2	○			○			○	
2	○			基礎理科Ⅰ	本授業の目的は、これから人体の構造と機能を学ぶ上で必要となる生物学についての基礎知識を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
3	○			基礎理科Ⅱ	化学物質の合成反応、構造、物性及びそれらの利用に関して論述する。日常生活における化学物質の役割とその功罪を理解させることを目的とする。目標は化学物質の取扱と利用後の処理に関する素養を身に付ける。	1後	30	2	○			○			○	
4	○			心理学	人間関係の中で生じる心理現象について広く理解し、スポーツの現場や運動指導、または施術などの臨床現場で患者との良好な関係を形成、維持するための応用的な思考を身に付ける。	1前	30	2	○			○			○	
5	○			保健体育Ⅰ	スポーツに携わる者が知っておくべき運動の基礎知識について学ぶ。さまざまなトレーニング方法がもたらすそれぞれの効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	1通	60	4	○			○			○	
6	○			保健体育Ⅱ	スポーツに携わる者が知っておくべき運動の基礎知識について学ぶ。さまざまなトレーニング方法がもたらすそれぞれの効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	2前	30	2	○			○		○		
7	○			解剖学Ⅰ	医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立する。	1通 F1 2: G1	68	4	○			○		○		
8	○			解剖学Ⅱ	1年次で学習した人体の正常な構造と機能を統合的に再度学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につける。	2通	68	4	○			○			○	
9	○			解剖学Ⅲ	1・2年次に学んだ解剖学の内容について反復学習することで、より理解を深めることを目的とする。単に暗記に留まらずに、人体の個々の形態、それらの関係を理解し、解剖学的思考を養い、器官と構造の相互関係、形態と機能の相互関係などについて臨床において必要な知識の習得を図る。	3前	34	2	○			○			○	

10	○		生理学Ⅰ	柔道整復学の理論を正しく理解し根拠に基づいた実践を行うため、人体の各器官がどのような機能を持ち、どのような役割分担をしているか、また、どのように統合されているかを学習する。	1通	68	4	○			○	○		
11	○		生理学Ⅱ	柔道整復学の理論を正しく理解し根拠に基づいた実践を行うため、人体の各器官がどのような機能を持ち、どのような役割分担をしているか、また、どのように統合されているかを学習する。	2通	68	4	○			○	○		
12	○		生理学Ⅲ	1・2年次に学んだ生理学Ⅰ・Ⅱを正しく理解し、人体の各器官がどのような機能を持ち、どのような役割分担をしているか、また、どのように統合されているかを再確認する。	3前	34	2	○			○	○		
13	○		運動学Ⅰ	運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。	2通	68	4	○			○	○		
14	○		運動学Ⅱ	運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。	3前	34	2	○			○	○		
15	○		病理学概論	病理学の概略として1. 病理学の意義、2. 疾病の一般、3. 病因、4. 疾病各論についての講義を行い、学んだ知識が将来の自己学習の基礎となりうるように学習することを目的とする。	2通	68	4	○			○	○		
16	○		一般臨床医学Ⅰ	一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。	2通	68	4	○			○	○		
17	○		一般臨床医学Ⅱ	一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、	3後	34	2	○			○	○		
18	○		整形外科学	運動器の基礎知識と診察法、種々の検査法、治療法、スポーツ整形外科、リハビリテーションならびに各疾患別各論と身体部位別疾患について整形外科領域の専門的知識の修得を目的とする。	2前	34	2	○			○	○		
19	○		外科学概論	外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常の臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を学ぶ。さらに実用的な内容にも触れ適切な治療ができるような知識を身につける。	2後	34	2	○			○	○		
20	○		リハビリテーション医学	患者の持つあらゆる障害に対処していかなければならないリハビリテーション医学は、その需要がさらに広がっている。広い知識を身に付け社会の要請に応じられるような知識の修得を目指す。	2後	34	2	○			○	○		

21	○		柔道整復学の適応	柔道整復術の適応と非適応を知り医師との連携を考えることができるようにすることを目的とする	3前	30	2	○			○	○		
22	○		社会保障制度	社会保障制度近年、医療保険制度改革を始め、柔道整復師を取り巻く環境やしきみは大きく変化している。そのため社会保障制度のなかでも柔道整復師に必要な、皆保険制度、療養費の支給について学ぶ。	1前	17	1	○			○	○		
23	○		公衆衛生学・衛生学	医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学習する。	1通	68	4	○			○	○		
24	○		職業倫理	近年、医療従事者のモラルの低下が問われており、私達柔道整復師も質の低下が問題視されている。そのため、柔道整復師の歴史、倫理を学び、現在の状況を分析し、医療従事者としてのあるべき姿を考える。	1後	17	1	○			○	○		
25	○		柔道実技Ⅰ	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。受身、礼法、投の形の修得を目標とする。	1後	34	1				○	○	○	
26	○		柔道実技Ⅱ	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。	2通	68	2				○	○	○	
27	○		柔道実技Ⅲ	認定実技審査に向けた総仕上げをし、全員合格できるように授業をすすめる	3通	45	1				○	○	○	
28	○		関係法規	柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。	3通	68	4	○			○	○		
29	○		基礎柔道整復学Ⅰ	柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶ。	1通	68	4	○			○	○		
30	○		基礎柔道整復学Ⅱ	柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷顎関節損傷を学ぶ。	1通	68	4	○			○	○		
31	○		基礎柔道整復学Ⅲ	1・2年生で学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶことを目指す。外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む。	3前	34	2	○			○	○		
32	○		総合基礎柔道整復学	最も多く遭遇する骨折や脱臼軟部組織損傷を学ぶ	3後	34	2	○			○	○		
33	○		臨床柔道整復学Ⅰ	柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識習得を目的とする。	1通	68	4	○			○	○		
34	○		臨床柔道整復学Ⅱ	指導管理と最も多く遭遇する捻挫・挫傷など軟部組織損傷を学ぶ。頭蓋骨骨折や胸部の骨折を学ぶ。	1通	68	4	○			○	○		

35	○		臨床柔道整復学Ⅲ	1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指す。	2通	68	4	○			○		○					
36	○		臨床柔道整復学Ⅳ	1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指す。	2通	68	4	○			○		○					
37	○		臨床柔道整復学Ⅴ	骨折・脱臼・捻挫・打撲の治療の参考にするための超音波画像を学ぶ。柔道整復術適応の臨床的判定・医療画像の理解を含む	3後	68	4	○			○		○					
38	○		臨床柔道整復学Ⅵ	柔道整復師が施術所で使用する物理療法機器等の取り扱いを学び、安全に人体に使用できるようになる	3通	68	4	○			○		○					
39	○		基礎実技Ⅰ	柔道整復師は、緩まず確実かつ合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とし、副子、ギプス、テーピング等を行う。	1通	68	2				○		○		○			
40	○		基礎実技Ⅱ	基本包帯法と軟部組織損傷の整復固定について学ぶ。認定実技試験対策とする。	1通	68	2				○		○		○			
41	○		柔整実技Ⅰ	1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指す。	2通	68	2				○		○		○			
42	○		柔整実技Ⅱ	柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	2通	68	2				○		○		○			
43	○		柔整実技Ⅲ	柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に関わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	2通	68	2				○		○		○			
44	○		柔整実技Ⅳ	高齢者の外傷予防、競技者の外傷予防を学ぶ、またこの教科に臨床実習前試験を追加する下肢脱臼・上肢脱臼復習	3通	68	2				○		○		○			
45	○		柔整実技Ⅴ	柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	3後	34	1				○		○		○			
46	○		柔整実技Ⅵ	柔道整復師として患者の主訴を理解するために体表解剖を学ぶ。	3通	##	3				○		○		○			

47	○		柔整実技Ⅶ	柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	3通	##	3			○	○	○							
48	○		臨床実習Ⅰ	柔道整復師として患者の主訴を理解するために体表解剖を学ぶ。	1通	45	1			○	○	○							
49	○		臨床実習Ⅱ	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを見学して学ぶ。	2通	45	1			○	○	○							
50	○		臨床実習Ⅲ	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。	3通	45	1			○	○	○							
51	○		臨床実習Ⅳ	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。また、接骨院だけでなく介護施設や病院での働き方を学ぶ。	3通	45	1			○	○	○							
52	○		総合演習Ⅰ	スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	1前	30	2	○			○	○							
53	○		総合演習Ⅱ	スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようにする。	2通	60	4	○			○	○							
54	○		総合演習Ⅲ	接骨院でよく遭遇する外傷と鑑別法、治療法を学ぶ	3後	30	2	○			○	○							
合計					52 科目				2829 単位 (単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：学科の教育課程に定められた必修科目のうち、卒業学年度までに履修		1学年の学期区分	2期
履修方法：単位習得制		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。